

予報期間 10月10日から10月16日まで

◆今期間のポイント

＜主要じょう乱の概要＞

- 台風第22号と第23号については最新の台風予報を参照。
- 12日は、低気圧が三陸沖から日本の東へ進み、大陸の高気圧が日本海へ張り出す。
- 13日から14日は、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。気圧の谷が朝鮮半島付近から日本海へ進む。
- 15日から16日は、日本付近は大陸の高気圧と日本の東の高気圧との間で気圧の谷となる。

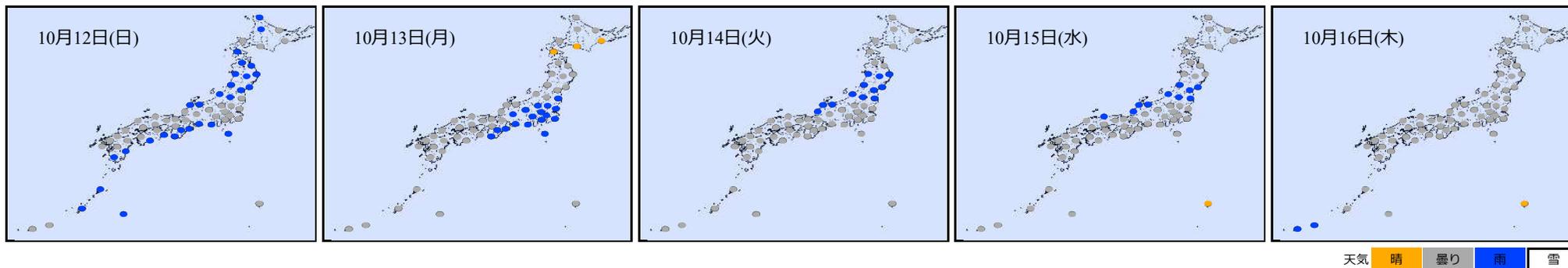
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 12日にかけては、沖縄・奄美では台風第23号の影響で大しけとなる所があり、台風の進路等によっては警報級の大雨や高潮、大荒れとなるおそれがある。
- 12日から14日頃にかけては、台風第23号の進路等によっては、西日本から東日本の太平洋側では大しけや警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

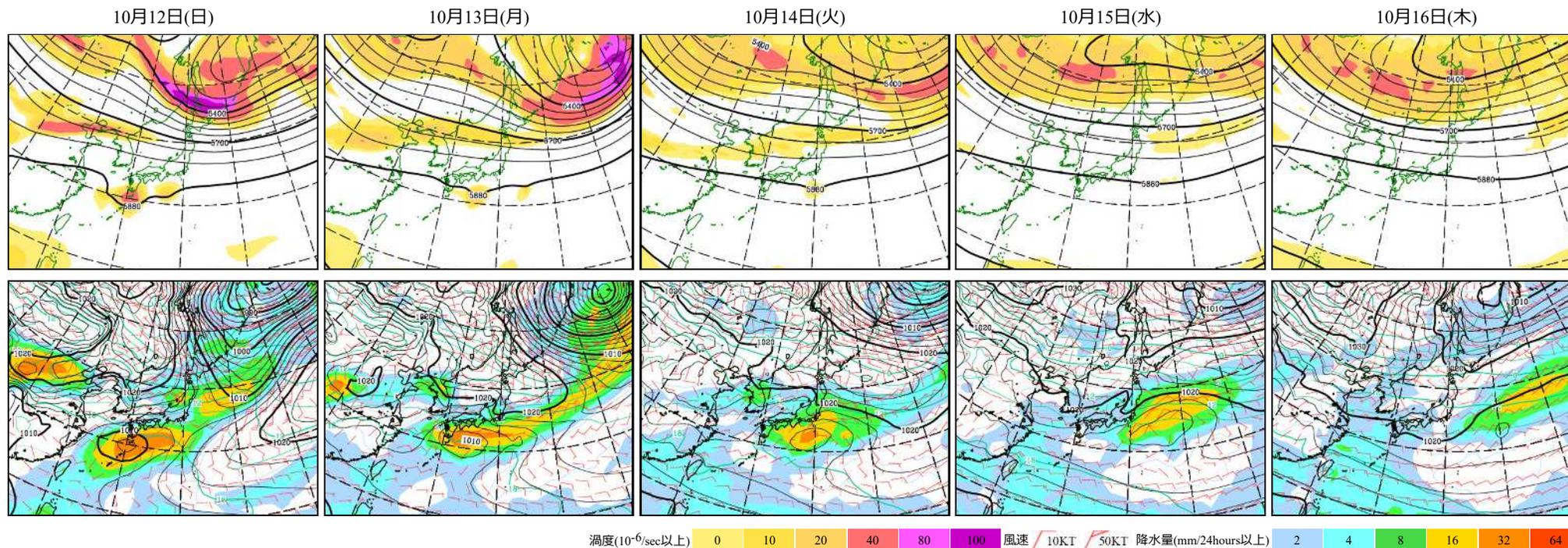
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

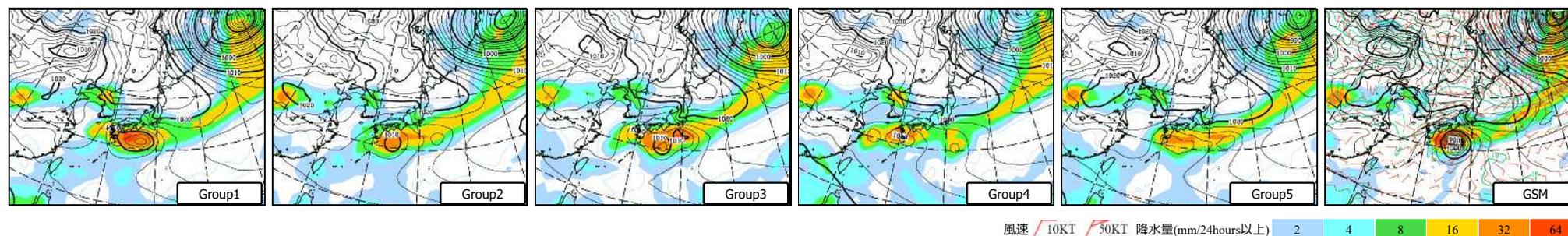


- 北日本は、晴れる所もあるが、曇りや雨の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、12日と16日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月13日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、12日から14日は台風第23号が日本の南を東進する予想が明瞭となった。また、14日から15日は、沿海州からサハリン付近へ進むリッジが強まり、北日本付近から日本の東へ移動する高気圧の勢力が強まった。降水確率ガイダンスは、13日は東日本と西日本南岸で大きくなった。
- 台風第23号の動向については、各モデルの予想の差が大きく不確実性が高い。ENSメンバーの中には、12日は東日本の南へ進むメンバーや、東シナ海へ進むメンバーが見られ、メンバー間のばらつきも大きい。
- スプレッドは、期間の終わりは大きく、5400mと5700mの特定高度線のばらつきが大きい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、台風第23号の動向によっては、予報が大きく変わる可能性があることに留意。